

V02b JVOの開発研究(検索機能一般公開)

川野元 聡、大石雅寿、白崎裕治、田中昌宏、本田敏志、水本好彦、大江将史(国立天文台)、安田直樹(東大宇宙線研)、増永良文(お茶の水女子大)、石原康秀、堤純平(富士通)、中本啓之、小林佑介、坂本道人(セック)

様々な観測装置が様々な波長域で生み出すデータは近年特に膨大な量となっている。これらのデータの多くはアーカイブデータとして公開されているが、このような複数の波長域のデータを使った統計的な研究などを行うには、分散配置されたデータベースへ一元的にアクセスし、各データベース同士で検索や解析ができるシステムが不可欠である。我々はこのような研究を可能にするシステムとしてVO(Virtual Observatory — 仮想天文台)の開発を進めている。現在、IVOA(International Virtual Observatory Alliance)の進める標準化に基づいて、我々のJVOは海外のVOと連係して、相互にアーカイブデータへのアクセスを行なうことが可能になっている。

我々が開発を進めているJVOでは、2006年8月中旬を目処に、現在稼働中のJVOプロトタイプポータル機能の一部を一般に公開することを予定している。今回は、世界各国のVOに対してのデータサーバ検索機能およびデータ検索機能を公開する。また、検索結果はVOTableと呼ばれるIVOAの定めるXML形式で返されるため、検索結果の表示機能も同時に公開する。気軽な利用を促進するため、これらの機能の使用についてはユーザー登録等は不要とする。JVOの全機能を使用する権限に関しては登録制をとるが、一般からの登録の開始は2007年春頃を予定している。今回公開される機能のデモンストレーションをポスター会場で行なう予定である。